

夢の看護師へ一歩



患者の足浴を体験した高校生（右）

製鉄記念室蘭病院、高校生が体験

製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）のふれあい看護体験が24日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、看護師を目指す高校生が、血圧測定や車いす移乗、清拭などを通して看護の心を学んだ。

同体験は、看護師を夢見る高校生を対象に実際に患者と接し、働くことの喜びを感じてもらうことを目的に毎年開催。この日は、西胆振の高校8校から16人が

参加した。生徒たちは、2、3人で一組となつて内科や循環器内科、外科、産婦人科などの病棟を見学。

このうち内科では、患者さんの足浴などを体験した。看護師から「丁寧に洗うのも大事だけど痛いところ、かゆいところがないか確認してコミュニケーションを取ることも大切」などと指導を受け、生徒たちは緊張した表情でせっけんを泡立て、ガーゼで足の裏か

ら指の間まで丁寧に洗った。

海星学院高校の大塩優さん（3年）は「患者さんの手や足などを洗つ体験をさせていただけましたが、力加減が難しくちよつとした気遣いが必要だと感じました。短い時間でしたが、良い体験ができました」と目を輝かせていた。

8月5日には、2回目の開催が予定されている。

（高橋紀孝）